父母と学ぶ会だより

NO．30 研修報告号～H２８年 11 月発行

研修報告①

H28年7月5日（火）8月8日（月）9月13日（火）

人をどう理解し、人にどうかかわるか

～カウンセリングから学ぶ～

講師　西尾明先生

福祉施設職員など、「対人援助職」に求められるのは「知識」・「技術」そして態度のバランスです。知識と技術が重視されがちな現状がありますが、最も大切なのは態度（人間性）であり、人間関係づくりに深くかかわっているのです。

態度・・・①心を開く②受容する③共感する
この３つの態度を伝えていくプロセスが「傾聴する」ことです。

聴く技法

「沈黙」・・・・黙って聞く
「簡単な応答」・相槌をうつ
「動作・表情」・頷く、微笑む
「繰り返す」・・大事な所を繰り返す
「明確化」・・・相手の言いたいことや感情をまとめる

人の心を最も傷つけるものは人の心であり、また人の心を最も温めるのも人の心です。人は信頼する人の言葉は受け入れられ、心に残るものです。相手を理解するためには心を開き、相手の話を（気持ちを）よく聞くこと、そして自分を知ることが大切だと学びました。

（文責　鈴木美由起）

研修報告②

H28年7月11日（月）、9月2日（金）、10月7日（金）
静岡県知的障害者福祉協会「医療･看護講座」

「知的発達障害者と医療」

講師　山倉慎二先生

今回３回の講座に参加させていただき改めて感じたことは、健常者であっても障害者であっても皆一人の人間として生きていること、適切な治療をうける権利があるということです。

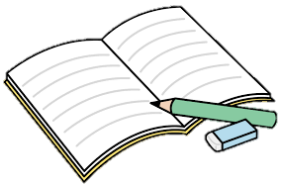
「何のために生きているのか…？」と問われた際に、「一回でも多く笑うため」と答えた方がいたそうです。確かにその通りだと思いました。講師である山倉慎二先生は、「障害者だからできない」、「障害者だから仕方ない」、「障害者だから栄養を補給するだけでいい」、全てそこで諦めてしまえば前には進めない。障害者にとって笑顔溢れる社会になってほしいと願いますと言っておられました。私も支援者として自分から歩み寄り一人一人に合わせた支援を心掛けていきたいと思いました。

（文責　和久井　美奈）

施設内研修報告①

H28年7月25日（月）　発表者　溝口　諒　栗田百江

研修テーマ
「連絡ノートの書き方について」



利用者の皆さんのゆいまあるでの活動の様子を伝える手段として「ノート」があります。
私達職員は日々のノートをどの様に書いているか話し合いました。

メラビアンの法則（初対面の相手とのコミュニケーション時）

「視覚的印象」・・・・表情、姿勢、態度、身振り、外見、視線
「聴覚的印象」・・・声、話し方、間の取り方など
「言葉」・・・・・・話の内容

人と話をすることはこれだけの情報があります。文字で伝える難しさがわかりますね。

職員でノートの書き方について意見交換をしました

ゆいまあるでの出来事をどんな手段で伝えた方がいいのかを話し合いました。

1．連絡ノートで伝えるべき内容
（持ち物のこと、発作があったこと、少し熱（36.9度）が高くて様子を見た時など）
2．電話で伝えるべき内容
（利用者が転んで膝をすりむいた、何日か休んでいた方に家での様子を知りたい時など）
3．対面して伝えるべき内容
（支援計画で取り組む際に保護者の協力を求める時、イライラして飛び出したなど）

研修を終えて

普段連絡ノートを使って保護者の方と連絡をとっていますが、「文字」で伝える際の特徴が改めてわかりました。利用者の方がどのようにゆいまあるで過ごしているのかをわかりやすく伝えていけるようしたいと思いました。文字で伝えることと言葉で伝えることをしっかりと判断して日々の連絡を保護者の方としていきたいと思いました。

（文責　溝口　諒）

施設内研修報告②

研修テーマ
「車椅子の使い方」　H28年8月9日（火）

介護職員初任者研修の補助教材 DVD を使用して車椅子の介護の仕方の研修を行いました。DVD 視聴後に車椅子に乗って介護される側、車椅子の介護する側と相方の体験を行い感想を発表しあいました。

（文責　栗田百江）